

20024

当院におけるスレンダーPCIの現状

背景経腕動脈インターベンション(TRI)の普及により PCI の低侵襲化は加速し、また薬剤溶出性ステント(DES)の登場により、複雑な冠動脈病変に対しても PCI, 特に TRI が積極的に行われている。当院でも2012年度は待機 PCI の約86%が TRI, 77%が5Fr以下のシース挿入にて行われている。TRI の普及やカテーテルサイズの細径化に伴い、患者の負担軽減は明らかであるが、使用デバイスの制限等手技に制約があるのも事実である。今回カテ室コメディカルの目線で当院におけるスレンダーPCIについて検討してみた。**方法**2010年10月~2013年5月までに当院にて待機 PCI を施行した362症例を登録した。Slender群253病変, 非Slender群109病変の2群に分けた。Slender PCI は5Fr以下のシースサイズ(シースレスガイドィング含む)で行う PCI と定義した。PCI 手技時間含む手技背景, 術中合併症等を比較検討した。**結果**患者背景については Type B2/C 病変の比率, 手技成功率, 平均手技時間, 術中の心事故合併率は両群間で変わらなかった。またスレンダー群で TRI 率が有意に大(87% vs41%)であり, 平均シース径(4.72Fr vs6.53Fr), TRI 時の腕動脈攣縮によるアプローチ変更率は有意に小(0.9% vs4.8%)であったが, 手技中のシステム変更率は有意に大であった。またスレンダー群は入・退室時の車椅子使用率が有意に大であり, 患者様の手技時間以外のカテ室滞在時間の短縮につながっていた。**結論**待機症例におけるスレンダーPCIは非スレンダーPCIと比較し, 手技的成果は変わらない。患者の負担軽減を考慮すると推奨されるべきである。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分~ 時 分

受付番号

演題番号